

平成 30 年度

事業報告

[案]

社会福祉法人ベタニヤホーム

目 次

○平成 30 年度 法人本部 事業報告	1
○平成 30 年度 母子生活支援施設 ベタニヤホーム 事業報告	8
○平成 30 年度 菊川保育園 事業報告	20
○平成 30 年度 富士見保育園 事業報告	26
○平成 30 年度 こひつじ保育園 事業報告	31
○平成 30 年度 ベタニヤホームおひさま保育室 事業報告	35

平成30年度法人本部事業報告

社会福祉法人ベタニヤホーム

1. 理事会 開催回数 10回

期 日	出席者			協 議 事 項
	理事	監事	その他	
平成30年4月26日	7	2	2	1. 決議事項 第1号議案 業務担当理事の位置づけの件 〃 追加議案 業務ブロック担当理事の選任 第2号議案 貸金規程改正の件 第3号議案 コンサルタント委託の件 第4号議案 「現状分析報告書」「対策試案書」の件 第5号議案 その他①母子生活支援施設建替えの件 ②おひさま保育室の件
平成30年5月26日	6	2	6	1. 決議事項 第1号議案 平成29年度事業報告及び計算書類並びにそれらの付属 明細書承認の件 第2号議案 理事・監事の報酬額決定の件 第3号議案 有期契約職員就業規則一部改正の件 第4号議案 評議員招集事項決定の件 第5号議案 「現状分析報告書」「対策試案書」の件 第6号議案 「貸金規程検討委員会」設置及び委員任命の件 第7号議案 次回理事会開催予定日 2. 報告事項 1 母子生活支援施設建替えの件 2 おひさま保育室への苦情の件 3 平成29年度社会福祉充実残額の件
平成30年6月29日	7	2	—	1. 協議事項 第1号議案 評議員会の招集事項 <理事会決議の省略>
平成30年8月18日	7	2	—	1. 協議事項 第1号議案 母子生活支援施設ベタニヤホーム仮設建物工事業者入 札参加条件の件 <理事会決議の省略>
平成30年8月25日	7	2	—	1. 協議事項 第1号議案 母子生活支援施設ベタニヤホーム仮設建物工事入札指 名予定業者の件 <理事会決議の省略>
平成30年8月31日	7	2	5	1. 決議事項 第1号議案 諸規則制定及び改正 ①借上げ宿舍規程の制定 ②有期契約職員就業規則の改正 ③富士見保育園建設検討委員会設置規則の制定 第2号議案 駐車場経営の終了に伴う収益事業の廃止 第3号議案 初任給引上げ及び夏期賞与支給の件 第4号議案 施設長人事異動の件 第5号議案 おひさま保育室平成30年度キャリアアップ補助金支給の 件 第6号議案 母子生活支援施設及び菊川保育園の敷地境界線に関す る件 第7号議案 母子生活支援施設ベタニヤホーム仮設建物工事業者決 定の件 第8号議案 母子生活支援施設建替えに要する資金計画の件

期 日	出席者			協 議 事 項
	理事	監事	その他	
平成30年9月26日	7	2	4	<p>第9号議案 富士見保育園保育室サッシ工事の件 第10号議案 「経営組織の点検に係わる第三者委員会」設置の件 第11号議案 次回理事会開催予定日 2. 報告事項 1 ベタニヤホームおひさま保育室の件 2 母子生活支援施設仮設建物工事の件 3 母子生活支援施設建替え検討委員会からの報告</p> <p>1. 決議事項 第1号議案 母子生活支援施設取壊しに伴う基本財産処分の件 第2号議案 駐車場敷地を基本財産へ組み入れる件 第3号議案 諸規則改正の件 ①賃金規程の改正 ②菊川保育園管理規程の改正 第4号議案 平成30年度第1次補正予算(案)の件 第5号議案 母子生活支援施設建替えに伴う福祉医療機構より借入の件 第6号議案 母子生活支援施設本設工事の件 第7号議案 母子生活支援施設仮設建物工事の件 第8号議案 事務長選任の件 第9号議案 長畦氏マンション販売予定価格の引き下げの件 第10号議案 賃金規程検討委員会委員増員の件 第11号議案 次回理事会開催日決定の件 2. 報告事項 1 社会福祉法人ベタニヤホーム経営組織の点検に係わる第三者委員の決定</p>
平成30年10月29日	6	2	2	<p>1. 決議事項 第1号議案 母子生活支援施設内容変更の件 第2号議案 母子生活支援施設本設工事入札指名業者決定の件 第3号議案 母子生活支援施設引越し業者選定の件 第4号議案 次回理事会開催日決定の件 2. 報告事項 1 母子生活支援施設建替えの件 2 おひさま保育室開設準備金返還金の件 3 事務局移動の件 4 事務長選任の件 5 経営組織の点検に係わる第三者委員会の件</p>
平成30年11月20日	6	2	3	<p>1. 協議事項 議案第1号 定款変更の件 2号 保育園の管理規程改正の件 ①菊川保育園管理規程 ②富士見保育園管理規程 ③こひつじ保育園管理規程 3号 母子生活支援施設本設建替え工事業者決定の件 4号 母子生活支援施設内容変更の件 5号 事務長選任の件 6号 長畦氏マンション販売予定価格の引き下げの件 7号 評議員会招集事項決定の件 8号 次回理事会開催日決定の件 2. 報告事項 1 理事長職務の執行状況報告 2 母子生活支援施設仮設建物の進捗状況 3 おひさま保育室の件</p>

期 日	出席者			協 議 事 項
	理事	監事	その他	
平成31年3月20日	6	2	5	<p>4 母子生活支援施設のインターネット回線について</p> <p>5 母子生活支援施設応接室漏水の件</p> <p>6 その他</p> <p>1. 協議事項</p> <p>議案第1号 平成30年度第2次補正予算書(案)の件</p> <p>2号 平成31年度事業計画(案)の件</p> <p>3号 平成31年度当初予算書(案)の件</p> <p>4号 諸規則改正の件</p> <p>①就業規則</p> <p>②有期契約職員就業規則</p> <p>③嘱託職員就業規則</p> <p>④賃金規程</p> <p>⑤借上げ宿舍規程</p> <p>5号 法人事務長人事の件</p> <p>6号 菊川保育園副園長人の件</p> <p>7号 母子生活支援施設処遇改善費支給の件</p> <p>8号 平成30年度職員人事評価承認の件</p> <p>9号 菊川保育園テラス改修工事の件</p> <p>10号 母子生活支援施設建替え準備室の件</p> <p>11号 評議員会招集事項決定の件</p> <p>12号 次回理事会開催日決定の件</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1 理事長職務の執行状況報告</p> <p>2 業務ブロック担当(保育園統括園長)の業務内容の件</p> <p>3 経営組織の点検に係わる第三者委員会からの報告書の件</p> <p>4 苦情解決第三者委員会の報告</p> <p>5 母子生活支援施設ベタニヤホーム建替えの進捗状況</p> <p>6 定款の一部変更の認可について(平成31年3月19日認可)</p>

2. 評議員会 開催回数 4回

期 日	出席者			協 議 事 項
	評議員	理事	監事	
平成30年6月16日	6	1	—	<p>1. 決議事項</p> <p>第1号議案 平成29年度事業報告及び計算書類並びにそれらの付属明細書承認の件</p> <p>第2号議案 理事・監事の報酬額決定の件</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1 平成30年度社会福祉充実残額の件</p> <p>2 母子生活支援施設建替えの件</p>
平成30年7月17日	8	1	2	<p>1. 報告事項</p> <p>1 平成29年度事業報告に関する質疑応答</p> <p>2 監事による監査報告</p>
平成30年12月10日	7	1	2	<p>1. 決議事項</p> <p>第1号議案 母子生活支援施設取壊しに伴う基本財産処分の件</p> <p>第2号議案 定款変更の件</p> <p>第3号議案 母子生活支援施設建替えに伴う基本財産の担保提供の件</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1 理事長職務の執行状況報告</p> <p>2 母子生活支援施設仮設建物の進捗状況</p> <p>3 母子生活支援施設本設工事業者の決定</p> <p>第2号議案 平成31年度事業計画(案)の件</p> <p>第3号議案 平成31年度当初予算所(案)の件</p>

期 日	出席者			協 議 事 項
	評議員	理事	監事	
平成31年3月27日	7	1	2	1. 決議事項 第1号議案 2. 報告事項 1 理事長職務の執行状況報告 2 母子生活支援施設仮設建物の進捗状況

3. 監事監査 開催回数 1回(2日間)

期 日	出席者	協 議 事 項
平成30年5月14日	監事(業務)1名 各拠点職員	平成29年度事業報告について監査
平成30年5月16日	監事(会計)1名 各拠点職員	平成29年度計算関係書類及び財産目録について監査

4. 経営組織の点検に係わる第三者委員会

- 【設置】 平成30年8月31日(平成30年度第6回理事会決議)
- 【目的】 社会福祉法人ベタニヤホームの理事(理事長を含む)及び理事会の、主としてコンプライアンス(法令順守)及びガバナンス(統治)に関する問題点と対策について、専門的第三者(社会福祉法人のコンプライアンス及びガバナンス/実務運営/設立理念についての各専門家)の観点から検証して意見することを目的とする。
- 【委員】 3名(弁護士、法人関係者、ルーテル教会関係者等)
- 【業務】 (1)委員会の開催 3回 調査方針等を確定、検討、意見書作成
 (2)事実関係の調査 関係書類、議事録、規程等の確認、施設・オフィスの確認
 (3)関係者へのヒアリング
 (4)報告書の作成 ほか
- 【経過】 平成31年2月 1日 理事長への調査報告・意見書提出
 平成31年2月13日 報告会開催(評議員、監事)
 平成31年2月25日 調査報告・意見書追補資料提出

5. 法人本部事務長の就任

これまで事務長代行を置いて法人本部事務局の業務を行っていたが、経営組織の点検に係わる第三者委員会からの調査報告・意見書にもあるように、法人本部機能の強化と体制再構築に向けて、平成31年4月1日から正規に事務長を法人本部事務局に置くこととした。

6. 委員会活動

(1) 経営委員会 11回開催

委員: 松田繁雄理事長、川島克之理事、和田真弓理事

陪席: 鷺見達也理事、長谷川晃司理事

昨年度に引き続き、今年度も理事会の議案に関する協議が多かった。特に、母子生活支援施設の建替え、賃金規程をはじめとする諸規程の改正、法人事務局強化、各園・施設の整備等について精力的に協議を行ったほか、定款変更に向けての検討を行った。

(2) 施設連絡協議会 11回開催

構成員: 理事長、各園長・施設長、法人本部事務局員

陪席: 鷺見達也理事、長谷川晃司理事

- ・ベタニヤホーム創立記念会、永年勤続表彰について
- ・保育士の職員採用、働き方改革について
- ・おひさま保育室への苦情について
- ・賃金規程ほか諸規程の見直しについて
- ・役職員合同クリスマス礼拝、クリスマス献金、東京大空襲犠牲者追悼礼拝について
- ・各園・施設整備について ほか

(3) 苦情解決第三者委員会 3回開催

委員: 加藤 純、山本雅美、堀かおる、市川直美、廣田仁一、綱春子

第1回 平成30年4月23日(臨時)

「ベタニヤホームおひさま保育室」事業終了に関わる苦情について(意見箱苦情)

第2回 平成30年9月20日

	母子生活支援	菊川保育園	富士見保育園	こひつじ保育園	おひさま保育室
意見箱苦情	0	0	0	0	2
意見・要望	0	0	0	0	0

第3回 平成31年2月22日

	母子生活支援	菊川保育園	富士見保育園	こひつじ保育園	おひさま保育室
意見箱苦情	0	0	0	0	0
意見・要望	1	0	0	0	0

(4) 賃金規程検討委員会 7回開催

構成員: 松田繁雄理事長、川島克之理事、和田真弓理事、伊藤 操理事

伊丹 桂施設長、アドバイザー: (株)MAN90・鳴瀧氏

委員会で、能力給+年齢給を統合した基本給案を作成したほか、職務手当等を併せて見直し、賃金規程案を理事会に上程し、決議を受けることができた。引き続き、人事評価等について委員会で検討を行っていく。

7. 機関紙「ベタニヤホームだより」の発行 3回 第126号～128号

8. イースター礼拝

日時: 平成30年4月21日(土)

場所: 日本福音ルーテル 聖パウロ教会

9. 第95回ベタニヤホーム創立記念会

日時: 平成30年9月15日(土)

場 所:こひつじ保育園

永年勤続表彰:4名

役職員研修会:記念講演「愛されて生き、生きて愛する」

講師 神奈川県立保健福祉大学名誉学長、横須賀基督教社会館会長 阿部 志郎氏

10. 役職員合同クリスマス礼拝 日時:平成30年12月8日(土)

礼 拝:日本福音ルーテル 聖パウロ教会

交流会:東武ホテルレバント東京 ヴェルデュール

11. 第56回東京大空襲犠牲者追悼礼拝

日 時:平成31年3月9日(土)

場 所:菊川保育園 にじ棟2階

講 演:「世界で起きている人道的危機と母子への医療援助」

講師 国境なき医師団日本 徳間 美紀氏

12. 職員の状況

(平成31年3月末現在)

	法人本部	母子生活支援	菊川保育園	富士見保育園	こひつじ保育園	おひさま保育室 ※	合 計
正 職 員	0	11	27	28	27	3	96
非常勤職員	2	4	23	7	7	3	46
合 計	2	15	50	35	34	6	142

※おひさま保育室のみ平成30年9月末現在

(1)平成30年度新規採用職員 8名

法人本部 0名 母子生活支援施設 1名 菊川保育園 5名 富士見保育園 2名

こひつじ保育園 0名 おひさま保育室 0名

(2)平成30年度退職職員 10名

法人本部 0名 母子生活支援施設 2名 菊川保育園 5名 富士見保育園 2名

こひつじ保育園 1名 おひさま保育室 0名(異動3名)

13.今後の課題と展望

4年後に控える創立100周年を念頭に置きつつ、社会的弱者への支援という基本精神にしっかりと足を据えて、今後の歩みに取り組んで生きたい。その為にも、法人組織の要である事務局の強化という課題が急務である。現在、田宮事務長を迎え、また、コンサルタント会社との連携も順調に機能している状況で、事務局の核とも言うべき部分は固まったと考える。但し、その核への肉付けとして、事務職員等を現在募集中であるが、難航している為、対象を更に広げて募集をかけて行く予定であり、5月中には目処がついてくればと考えている。また、多様な働き、会議等の体系化についても、田宮事務長を中心に、鋭意推進して行く。具体的には、現在、経営委員会、施設連絡協議会の2組織について、会議の位置付けや性格付けなどを、吟味し、規程の形で、まとめていく作業を行っている。

また、ベタニヤホームの働き人への基本姿勢である、賃金規程の改定については、昨年度給与部分の改定を全面的に行い、今年度は、評価及び階層(グレイド)の問題について、より良い、またより合理的な制度を作るように、1年をかけてまとめて行きたいと考える。その為には、副施設長、主任、副主任レベルまでの者たちを集めた、カンファレンスや、全職員を対象としたアンケートなど、必要とされることをすべて行ない、計画を進めて行きたいと考えている。

母子生活支援施設については、建物の建替え工事は、順調に進み、現在、仮設住居の中で住みつつ、既存建物の取り壊しは完了し、起工式を済ませ、新規建物の建築に入ったところで、ベタニヤホームの基本理念を

生かした建物作りが試みられている。また、将来の計画としては、複数の母子生活支援施設を運営できる、しっかりとした施設作りに取り組み、歩んで行きたいと考えている。

保育園事業に関しては、懸案の「ベタニヤホームの保育理念の確立」を、保育ブロック業務担当理事の和田理事を中心に、まず施設横断的相互研修への参加呼びかけから始めて、徐々に形を整えているところである。教会との関わりについては、聖パウロ教会が、礼拝、理事会、諸委員会の会場として、その場を提供してくださった事に感謝。他に関連の教会としては、東京教会、小岩教会などがあり、特に東京教会では、内海前理事長の葬儀が行なわれた事を特記しておく。また、何人かの現役、引退の教職の方々に、理事、評議員、チャプレンなどの働きをしていただいた。今後の展開としては、ベタニヤホーム後援会の設立への準備も行なわれている。

平成30年度
母子生活支援施設ベタニヤホーム事業報告

1. 平成30年度事業概要

- ① 法人理念を基盤とした施設理念を策定し、施設の目標、職員の行動価値基準を設定した。
- ② チームケアを目指した体制を強化した。
- ③ 利用者支援の質的向上を目指した職員個々の研修、全体の研修、スーパービジョン等、学ぶ機会を増加した。
- ④ 3カ年度の施設整備事業（建替え事業）を開始した。

【平成30年度利用者数推移】

H30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
世帯数	15	12	13	12	12	12	12	11	12	11	12	13
利用者数	33	27	29	26	26	26	26	24	24	24	26	28

* 平均利用世帯数：12.3 世帯

* 平均利用者数：26.6 人

【参考：平成30年度重点項目】

- 支援における人権擁護意識の徹底
 - ストレngths視点を活かした支援展開
 - 利用者のアドボカシーを軸とした関わり
 - 苦情解決への取組み
- 施設としての意思決定プロセスの確定
 - 平成29年度に確定した会議体系を基盤とした職員間の合意形成を更に強化するための、業務マニュアル策定と各種記録フォーム策定
 - 各種事業の「見える化」を図るための事業実施件数のより詳細な数値化
 - キャリアパスの策定と職責による業務の明確化
 - 各種事業を新設、もしくは改変する場合には、原則として職員による委員会による検討方式を採用
- 支援者の支援スキルの向上
 - 利用者の「生きる力」の獲得に向けた支援研修
 - 施設が担うべき使命、及び利用者との関わりを強化するための相談支援研修
 - ファミリーソーシャルワークのあり方検討と実践展開
 - 職位に応じたリーダーシップを展開するための管理職・リーダー研修
- 施設設備の抜本的対策の実施
 - 防災体制充実への取組み
 - 施設整備事業への取組み

2. 事業計画重点項目の実施

- 施設設備の故障等に対し、即時対応を行った。
- 防災意識の涵養に注力し、職員の防災対応力を強化する検討を訓練、行事を通じて行った。
- 利用者ひとり一人のアセスメントを会議により実施し、支援者としての戦略を施設全体で共有した。また、その方針に則り支援を実施した。
- ケースカンファレンスにより決定した支援方針を「いつから」、「だれが」行うのかを明確化した。
- 施設理念の策定、チーム支援力向上と平成29年度の支援の振り返りを行うため、職員による研修（チームビルディング、及び利用者アンケートの結果分析）を行った。

- 外部研修にあつては、必要とされる知識を得られる研修を個別に付与した。
- 他施設での実地研修を実施した。

3. 人権擁護

- 書面として提出する苦情案件はなかった。施設内で発生した苦情は全て口頭で職員に伝えられ、直ちに解決が図られた。
- 施設整備事業に伴い、仮施設への移転を実施したが、利用者の意向を最大限尊重しながら、丁寧な説明と引っ越しに伴う支援を実施した。

4. 親子への支援

- 母親に対しては養育の価値観の押しつけや指導ではなく、保育士や保育園と連携することで、健やかな子育てができるようにアプローチし、親としての潜在的な強みを見立てることで、親自身の成長も鑑みた支援を行った。
- 就労経験を踏まえながら相談を行い、ハローワークへの同行、職業訓練やひとり親家庭向けの就労プログラムの紹介等を通して自立に向けての生活ができるような支援を行った。就労支援委員会にて引き続き、施設としての就労支援の在り方や就労面接時のフォーマット作成等についての策定を行い、完成した。
- 生活上の課題を利用者と共に考え、家事掃除支援・登校登園支援等の必要な各種支援と、退所後の地域社会で生活する事を見据えた、具体的な生活のアドバイス等の支援を行った。また、入所期間中に利用者の出来る事、出来ない事を利用者と職員の間で共通認識を持ち、保健センターや療育機関等の社会資源を活用し退所後も支援機関との繋がりが持てるよう支援を行った。
- 母の会では、母親間及び母子間の交流、母親への余暇活動の紹介を通し、利用者同士が他利用者や職員とつながることが出来る可能性を考慮し、広く参加を呼びかけかつ魅力的なプログラムを提供できるようアンケートを収集し、ニーズに沿ったものとした。
- 入所前から各区の福祉事務所と入所希望者の情報について共有し、支援方針の摺り合わせを行った。また、福祉事務所・児童相談所・子育て支援総合センター・学校・保育園とも情報共有を行い、母子に必要な支援について考え、役割分担と共通理解を図った。これにより、退所後も地域で生活するために必要な支援の構築が成された。

【母親の年間相談件数】

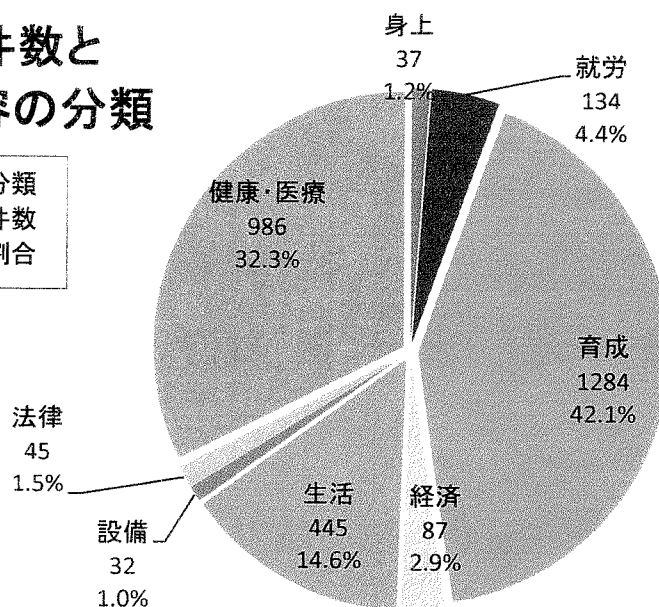
2018年度 年間相談件数 3050件

相談内容内訳 件数(%)

身上	就労	育成	経済	生活	設備	法律	健康・医療
37(1.2)	134(4.4)	1284(42.1)	87(2.9)	445(14.6)	32(1.0)	45(1.5)	986(32.3)

相談件数と 相談内容の分類

上段：分類
中段：件数
下段：割合



年間件数
3050件

【相談分類の内訳】

大区分	小区分	内容
身上	成育歴	入所までの生活
	虐待、DV	虐待、DV経験の有無、及びその内容
	親子関係	母親の原家族関係
就労	就労	就労全般、仕事始める、面接日程等
	教育訓練	資格取得・教育訓練
	学習指導	日本語、高卒認定試験等
	職業紹介	職業紹介、ハローワーク同行等
	人間関係	職場での人間関係
育成	子育て支援	子育て全般、しつけ
	親子関係	養育全般、子どもとの関わり方
	保育園	保育園手続き等
	保健	一般的健康管理
	性格・行動	友達と遊べない、落ち着きがない、緘黙等
	発達	ことばの遅れ、発達障害、知的
	学校	進学、進路相談、転校
	奨学金	
	登校・登園	登校支援、不登校、保育園送迎
	習い事	
	非行	虞犯、触法行為
	虐待	
	行政手続き	一時保護、ショートステイ等
経済	手当・貸付金	児童扶養手当、生活保護等
	金銭管理	収支バランス、貯金
生活	生活全般	生活リズム、門限等
	住環境	掃除・家事支援、整理整頓、家具組立補助
	転居	公営住宅、アパート、退所に向けて
	人間関係	フロア、隣人トラブル
設備	設備	施設設備等
法律	法律手続き	離婚手続き、養育費関係、支援措置等
健康 医療	医療手続き	入院手続き、医療費助成等
	症状確認	症状の把握
	通院同行	
	服薬	処方薬の副作用、服薬管理等
	メンタル	メンタルケア

【学童への支援】

- 小学生への学習支援

学校からの宿題を中心に学習支援を行った。また、対象となる子どもの特性に合わせた教材を活用し、補助的な学習支援も行った。日常の関りの中で学習に繋がる声掛けも積極的に行った。

- 中高生への学習支援

補習費や無料塾の情報提供を行い、塾を利用する事を勧めた。高校受験を控えた子どもへは学習室の貸し出しや、学校等とも連携を取りながら個別の学習支援を行った。受験対策として、学校情報提供を行った。

- 生きる力を培う支援

定期的な調理実習や銭湯体験、デイキャンプやサマーキャンプ、スプリングキャンプ、特別養護老人ホーム東京清風園利用者との交流会等様々な経験を通して、自分で出来る事は自分で行う、失敗した後どう行動するかを自分で考える事を促した。特に年間4回行ったキャンプでは災害後の生活を想定し、子ども達が主体的に行動できる訓練も行った。

【学童親子関係への支援】

- 子どもの様子（学童活動中・連絡帳・行事）を母親の状況に応じて、個別面談や親子面談を通して報告をしつつ、トラブルや問題行動が見られた時は、速やかな対応を行った。また個別対応として、親子関係の様子把握と職員との関係構築のため、親子クッキングを2回実施した。

【乳幼児の情報獲得と機会の増加】

- 外出行事

遠足は乳幼児に特化する形で時間と場所を設定することが可能となり、上野動物園、東向島児童館分館「キラむこ」へ行った。

- リフレッシュ保育は利用者からの要望でパウチャー方式を採用し、希望日に利用できるように設定し、2件実施した。

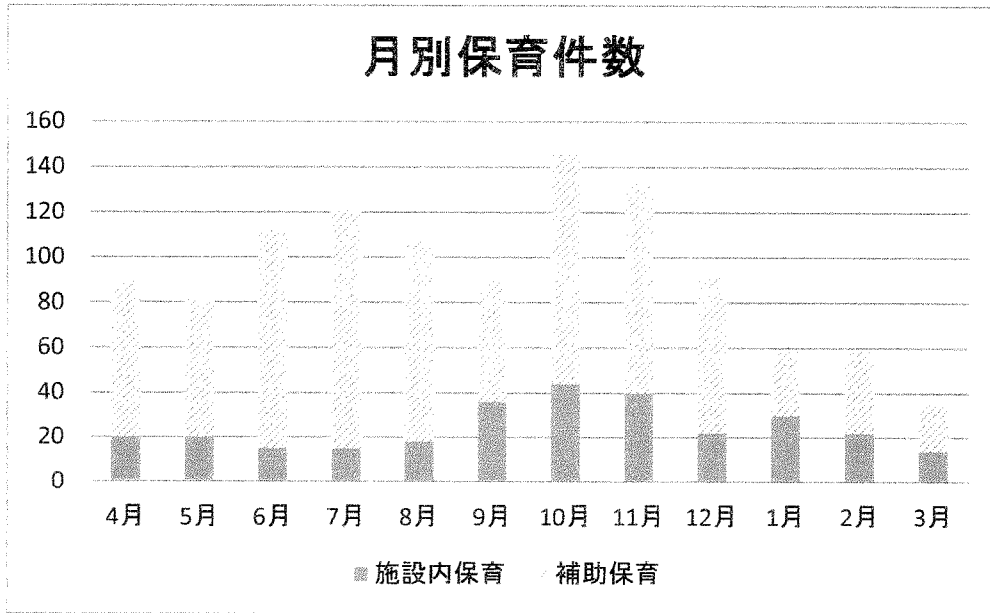
- 子育てについての母親との情報共有機会の設定

保育面接や保育室で母親も一緒に遊びながら子育ての助言をした。沐浴の介助、母親と一緒に離乳食作り、保育園申込み時には書類作成に直接関わり個別に接する時間を確保した。

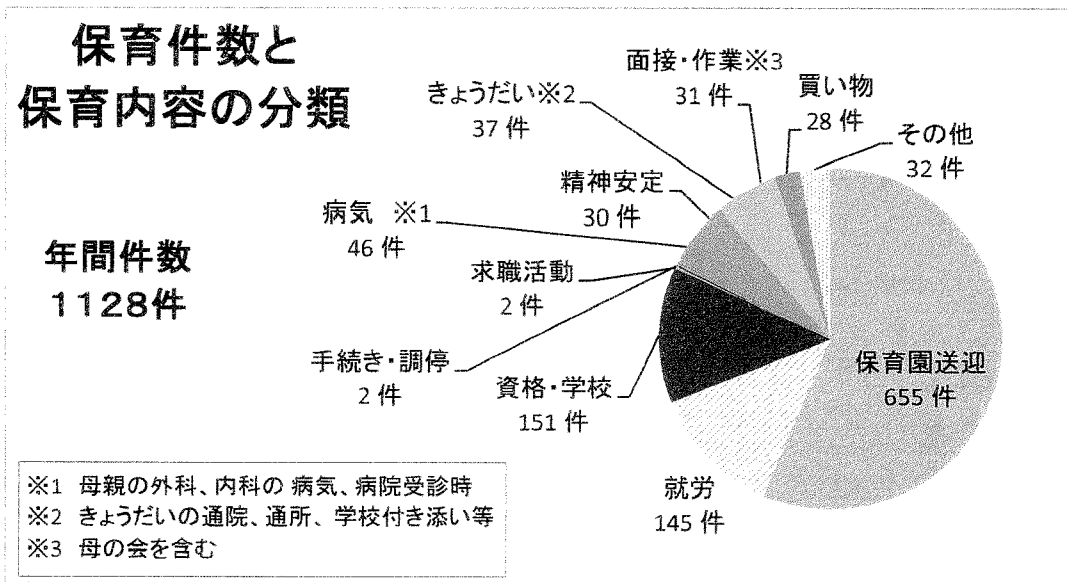
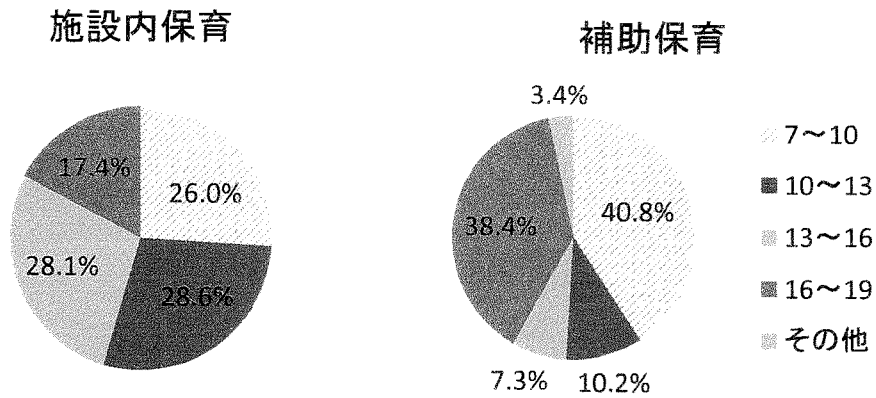
- 手続きのための区役所への同行、子どもの病院受診同行を実施した。

- 保育園の行事に参加し、保育園との情報共有も定期的に行った。

【施設内保育、補助保育、病後児保育】



時間帯別保育実施割合



5. 心理ケア

- ① 区からの調査書や入所時の面接の様子から、一定のアセスメントを行った上で、初回の自立支援面接に同席した。利用者の特性を見立て、想定されるリスク、心理ケアの有無及び方法を検討し、C.C（ケースカンファレンス）で共有した。
- ② アセスメント向上への取組み
 - プレ C.C を実施することで、C.C にてアセスメントをより深めることができた。また C.C がより有意義な議論の場として、効率化を図った。
 - 年間を通して、児童精神科医による SV を行った。
- ③ 心理的ケアの向上取組み
 - 生活場面での話の場を大切にし、心理ケアの契機を作った。また、深め過ぎず、必要に応じて外部機関へ繋げた。
 - 子どもは学童活動や保育に参加し、様子を観察した。
 - プレイセラピーを実施した場合、フィードバック面接において母子間の調整を行った。
 - 精神科や心療内科に利用者が通院する際、服薬状況や精神疾患の症状をうかがう及び現状を伝える等、必要に応じて同行を行った。
 - 職員へのコンサルテーションを行った。

【年間心理ケア実績】

	心理療法	生活場面面接	処遇上の助言	処遇会議
4月	4	17	9	9
5月	5	20	8	9
6月	9	13	3	1
7月	8	12	6	12
8月	15	15	1	2
9月	12	12	19	11
10月	13	19	4	28
11月	13	22	9	10
12月	8	23	3	5
1月	11	21	11	12
2月	5	22	1	12
3月	13	21	12	21
合計	116	217	86	132

6. レクリエーション活動

【季節の行事】

- 4月8日 進学進級祝い
- 5月12日 子どもの日・母の日お祝い会
- 8月18日 サマーパーティー

3月2日 成長を祝う会

【リフレッシュ保育】

2月23日：1件2名 3月23日：1件1名

【母子ハイク】

9月24日 鉄道博物館

【母の会】

4月7日、6月9日、2月23日実施

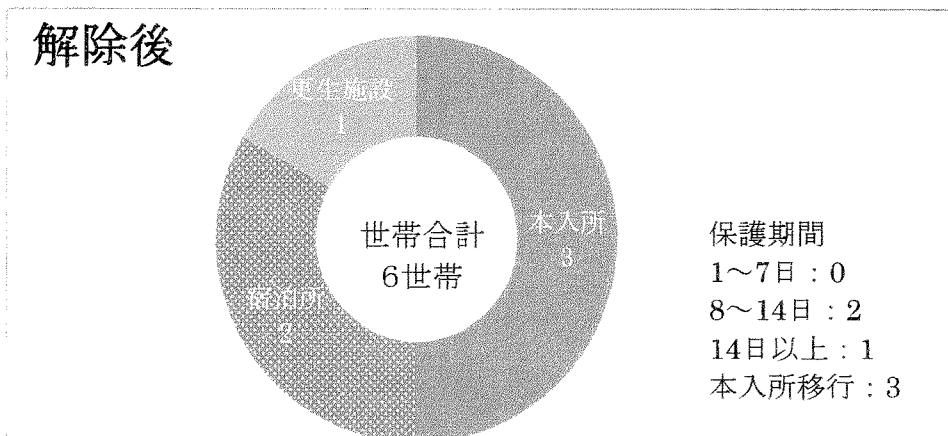
7. アフターケア

- 職員による退所先への訪問：7件
- 電話による相談：15件
- 来所による相談：19件
- 同行（通院・手続き等）：3件
- 行事参加（ドッジボール大会・サマーパーティー）：6件
- 関係機関連携：3件
- 学校公開見学：1件

8. 緊急一時保護

年間合計6世帯

	世帯数	保護理由	
		DV	居所なし
単身世帯	3	1	2
母子世帯	3	1	2



9. 会議

- 運営会議とC.C（ケースカンファレンス）の時期を入れ替え、月初にC.Cを実施し、その月のプレC.Cを設定しやすくした。

平成30年度会議実績								
月	運営会議	リーダー会議	C.C	プレC.C				
4	24	23	3	7	11	18	25	
5	22	15	22	1	22			
6	26	5	19	5	29			
7	24	3	17	3	26			
8	28	17		15	23			
9	25	4	18	4	5	5	20	
10	23	2	16	2	10			
11	27	6	27	6	14	14		
12	25	4	18	4	26			
1	22	15	22		12	30		
2	26	6	19	5	1			
3	26	5	19	5	2	13	19	

10. 職責の明確化

- 母子生活支援施設におけるキャリアパス設定とそれに伴う職員の処遇改善を実施した。
- 副施設長を配置し、施設長との業務分担を実施した。

11. 支援のネットワーク化

- 学生ボランティア（法政大学）、企業ボランティア（ギャップジャパン株式会社、株式会社スタイリングライフ・ホールディングス）が、直接利用者に関わる機会を設定し、特に子どもにとってのロールモデルを施設職員以外からも提供できるようにした。
- 企業CSRを積極的に受入れた。企業を訪問し社会的養護の講演を行い、理解促進に努めた。また、各企業から物品の寄付を受け入れた。（株式会社ドイツ銀行、トーヨーフーズ株式会社、株式会社カーブスジャパン、フェイスブックジャパン株式会社）

12. 環境整備

【保健衛生】

- 害虫駆除（年2回、6月・10月実施）
- ネズミ駆除（毎月最終火曜日に実施）
- 貯水槽清掃（5月実施）
- 水質検査（5月実施）
- 排水溝清掃（5, 9, 1月実施）

- 健康診断（利用者は3Sメディカルクリニックにて年2回受診）
- 施設内定期消毒（感染症予防のため、11月～3月の平日10時に実施）
- 職員インフルエンザ予防接種（10～11月嘱託医により実施）

【設備】

- 特定建物定期調査の結果、西側外壁タイル落下の危険性があり、落下防止工事を11月に実施した。
- 建物は築50年以上が経過し、施設設備に支障が出る事が多々あり、その都度職員が修理を行ったり、業者へ依頼し迅速に対応した。
- 建替えの為仮施設へ1月5日に事務所、6日に利用者5世帯、7日に利用者6世帯が引越しを行った。

13. 人材育成

【人材育成事業】

- 実習生への指導を福祉職による担当制とし、支援業務の振り返りの機会を設定した。
- 全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、東京都城東地区地域福祉施設協議会、日本キリスト教児童福祉連盟、東京都等が主催する研修、学習会、研修会、研究会等に参加した。
- 支援の質のさらなる向上、及び公益事業を展開する上での事例獲得のために、先進的な取り組みを実施している組織を訪問見学した。
- 他施設における実地研修を実施した。（鳥取県 母子生活支援施設）
- 目標管理面接により職員個々の研修要望を考慮した研修を付与した。
- 全職員が上級救命講習資格を取得することを施設の方針とし、取得、更新の研修に参加した。
- 施設主催のチーム・ビルディング、及び第三者サービス評価結果の分析、分析を踏まえた上での支援における改善点、改善方法の検討を行った。
- 職員の研修状況は別表1記載

【実習指導】

- 社会福祉士、保育士取得の実習生を受け入れた。
- 実習生の状況に課題があると判断された際には、大学と密な連携を図った。

【スーパービジョン】

- 支援困難ケースについて検討するため、小児精神科医をスーパーバイザーとして招き実施した。年間4回（5月30日、9月12日、11月28日、2月13日）

14. 防災対策

【防災訓練】

年間消火避難訓練計画を基に、月1回定例訓練を行った。また、昨年度に引き続き防災委員会にて、防災マニュアルの整備を行った。

【備蓄】

備蓄物品、食料品の分散保管と個別包装が出来た為、その管理方法について協議し、定期的に確認した。

【機材の導入】

各ライフライン等の確保について必要物品の見直しをおこなった。また職員の帰宅困難対策として、職員人数分自助バッグを準備した。

15. 職員福利厚生

【福利厚生の充実】

- 職員が考える福利厚生を次年度に活用するための面接を実施した。
- 公益社団法人墨田区勤労者福祉サービスセンター（フレンズすみだ）に加入を継続した。

【有給休暇取得率一覧】

会議の効率化、職員間の連絡機会の増加、SNS を利用した緊急連絡方法の確立等により、29 年度取得率よりも取得率を向上させる 30 年度の目標は、仮施設への移転準備、実施等により達成できなかった。また、連続 5 日間の休暇取得（有給休暇を主とし公休も含む）も、全職員には達成できなかった。

常勤職員	付与時間	取得合計	取得率	連続5日休暇
A(管理職)	320	0	0.00%	×
B(管理職)	320	66	20.63%	○
C(リーダー)	320	68	21.25%	○
D(リーダー)	320	13	4.06%	×
E	186	99	53.23%	○
F	132	95	71.97%	×
G	108	95	87.96%	○
H	80	8	10.00%	×
I	150	47	31.33%	×
J	320	80	25.00%	○
平均取得率			32.54%	達成率
平均取得率(管理職除く)			38.10%	50.00%

*平成 29 年度 平均取得率：33.38%

*平成 29 年度 平均取得率（管理職除く）：38.15%

16. 施設建替えへの取組

- 建替え実行委員会の法人内設置
- 設計委託先の選定
- 各種既存建物の調査実施
- 建替え後の居室環境も含め検討する環境整備委員会の施設内設置
- 東京都への法人審査会申請
- 町会等近隣地域への情報提供

17. 平成30年度年間行事実績

【施設行事】

別表2参照

【学童活動】

別表3参照

別表1【受講研修一覧】 Off-JT 研修のべ日数：79日

日付	研修名	主催
5/31	木 精神保健福祉基礎研修・ダイジェスト	精神保健福祉センター
6/15	金 新任職員研修会	東京都社会福祉協議会 母子福祉部会
7	4/水 社会福祉法人・施設 会計基礎実務研修会	東京都社会福祉協議会
	5/木 社会福祉法人・施設 会計基礎実務研修会	東京都社会福祉協議会
	6/金 社会福祉法人・施設 会計基礎実務研修会	東京都社会福祉協議会
	10/火 初任者のための相談力入門	精神保健福祉センター
12/木 第58回関東ブロック母子生活支援施設研究協議会	関東ブロック母子生活支援施設協議会	
13/金 第58回関東ブロック母子生活支援施設研究協議会	関東ブロック母子生活支援施設協議会	
8	1/水 支援者がゆらぐとき ～感情を扱う仕事について考える～	精神保健福祉センター
	7/火 社会福祉法人・施設 会計基礎実務研修会	東京都社会福祉協議会
	20/月 ルーテル社会福祉協会総会	ルーテル法人会
	21/火 ルーテル社会福祉協会総会	ルーテル法人会
22/水 ルーテル社会福祉協会総会	ルーテル法人会	
9	1/土 LGBTと企業	LLAN 中央大学
	15/土 子供の発達と配偶者暴力(DV)	東京ウィメンズプラザ
	18/火 より良い利用者支援につなげるための連携を考えるⅡ	母子福祉部会 従事者会
	19/水 離婚然との法律に関する基礎知識～事例から学ぶ・支援員が知っておくべきこと～	東京都ひとり親家庭支援センター・はあと
	22/土 LGBTと行政	LLAN 中央大学
	27/木 虐待対応～虐待等不適切な養育の心身への影響～	母子福祉部会 従事者会
	28/金 女性への人権侵害からの回復支援	日本キリスト教社会事業同盟
29	女性への人権侵害からの回復支援	日本キリスト教社会事業同盟
	女性への人権侵害からの回復支援	日本キリスト教社会事業同盟
	女性への人権侵害からの回復支援	日本キリスト教社会事業同盟
10	12/金 スーパービジョンとチームリーダーのあり方	東京都社会福祉協議会 母子福祉部会
	28/日 思春期における性の多様性とその支援について考える	白梅学園大学・白梅学園短期大学 地域交流研究センター
	31/水 CARE 専門家向けワークショップ	愛育クリニック
11	5/水 CARE 専門家向けワークショップ	愛育クリニック
	5/月 施設見学 社会福祉法人新栄会	東京都社会福祉協議会
	10/土 LGBTと婚姻	LLAN 中央大学
	15/木 平成30年度 新任職員フォローアップ研修	母子福祉部会 従事者会
	21/水 第61回全国母子生活支援施設研究大会	社会福祉法人全国社会福祉協議会
		社会福祉法人全国社会福祉協議会
	22/木 第61回全国母子生活支援施設研究大会	社会福祉法人全国社会福祉協議会
社会福祉法人全国社会福祉協議会		
25/木 上級救命講習		
26/金 上級救命講習		
12	5/水 ひとり親への就業支援～メニューの整理と効果の分析～	東京都社会福祉協議会
	8/土 LGBTと社会	東京都ひとり親家庭支援センター・はあと
	13/木 港区子ども家庭総合支援センター開設に向けた勉強会	港区
	14/金 社会的養育を担う児童福祉施設長研修会	全国社会福祉協議会
	17/月 状況対応型のリーダーシップ論	全国社会福祉協議会
	20/木 共感疲労とメンタルヘルス	東京都社会福祉協議会
	20/木 共感疲労とメンタルヘルス	東京都社会福祉協議会
1	11/金 新任職員研修会(後期)	東京都社会福祉協議会 母子福祉部会
	15/火 共感疲労とメンタルヘルス	東京都社会福祉協議会
	21/月 ファミリーソーシャルワーク研修会	全国社会福祉協議会
	22/火 ファミリーソーシャルワーク研修会	全国社会福祉協議会
	24/木 従事者会研修 退所に向けての支援を考える	従事者会
	木 従事者会研修 退所に向けての支援を考える	従事者会
	26/土 女性向け防災コーディネーター研修 地域生活編	東京都
2	4/月 施設長のための社会福祉法人会計入門研修	東京都福祉人材センター研修室
	14/木 養育費と面会交流の問題 ～離れて暮らす親と子の絆～	東京都ひとり親家庭支援センター・はあと
	28/木 第3回新入職員定着・育成セミナー 福祉職における働き方改革と人事管理	東京都福祉人材センター
3	5/火 配偶者間暴力をめぐって	子どもの虹情報研修センター
	6/水 配偶者間暴力をめぐって	子どもの虹情報研修センター
	11/月 DV被害者支援等を行う民間団体のためのパワーアップ講座	東京ウィメンズプラザ
	23/土 わが子を守る防災術	港区

別表2【施設行事一覧】

	施設行事	母行事	礼拝
4月	消火避難訓練(18日)	母の会(7日)	イースター礼拝(20日)
5月	子どもの日母の日お祝い会(12日) 消火避難訓練(23日)		サムエル会(30日)
6月	消火避難訓練(14日)	親子フラワーアレンジメント(6日)	花の日礼拝(27日)
7月	消火避難訓練(24日)		サムエル会(18日)
8月	サマーパーティー(18日) 消火避難訓練(21日)		サムエル会(29日)
9月	消火避難訓練(12日) 母子ハイク(24日)		サムエル会(26日)
10月	消火避難訓練(16日) 幼児遠足(17日)		サムエル会(24日)
11月	消火避難訓練(14日)		収穫感謝礼拝(19日)
12月	消火避難訓練(4日)		クリスマス礼拝(25日)
1月	新年会 消火避難訓練(24日)		サムエル会(23日)
2月	消火避難訓練(26日)	ソシオエステ(23日)	サムエル会(20日)
3月	成長お祝い会(2日) 幼児遠足(23日) 消火避難訓練(26日)		サムエル会(32日)

別表3【学童活動一覧】

	学童施設内活動	学童施設外活動
4月	進学進級祝い(8日)	
5月		東京清風園交流会(20日)
6月	おやつ作り(1日)	
7月	お昼ご飯作り(1日、27日) 学童デイキャンプ(16日) ドッジボール練習試合(31日)	学童デイキャンプ(16日) ドッジボール練習試合(31日)
8月	お昼ご飯作り(17日) お昼ご飯・おやつ作り(26日) 宿題終わらせた会、親子調理実習(30日)	サマーキャンプ(3日～5日) ドッジボール大会(12日) 銭湯(26日) 東京スター銀行訪問(29日)
9月	お昼ご飯作り(9日)	銭湯(15日) 東京清風園交流会(16日)
10月	おやつ作り(4日) 夕ご飯作り(29日)	赤い羽根共同募金活動(7日) 銭湯(18日、27日)
11月	スタイリングライフとのカード作り(25日) 夕ご飯作り(29日)	2施設合同デイキャンプ(4日)
12月	夕ご飯作り(4日) 学童クリスマス会(22日)	東京清風園交流会(9日) 銭湯(13日、26日)
1月	書初め(5日) 親子調理実習(20日) 夕ご飯作り(31日)	凧あげ(4日)
2月	バレンタインチョコ作り(10日) お昼ご飯作り(24日)	銭湯(28日)
3月	親子調理実習(12日)	銭湯(17日) スプリングキャンプ(27日～28日) 東京清風園交流会(26日)

平成30年度 菊川保育園事業報告

1. 児童の入所状況

定員 120名 入所率 99.0%

年齢	月定員	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
1歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
2歳児	21	21	21	21	21	21	20	21	21	21	21	21	21	251
3歳児	24	24	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	287
4歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	23	23	23	23	23	283
5歳児	24	24	24	24	23	23	23	23	24	24	23	23	23	281
合計	120	120	119	120	119	119	118	119	119	119	118	118	118	1426
延長保育	20	14	15	15	16	15	15	15	16	18	19	20	18	196
1時間単位保育		20	19	23	22	29	21	28	27	19	16	18	31	273
短時間スポット延長		1	2	2	1	1	1	1	1	2	3	1	3	19

・各区園児述べ人数

墨田区 1,398名、江東区 28名

2. 年間行事

(1) 定例行事

- ・誕生日会・0歳児健診・身体測定・避難、消火訓練（月1回 年間12回）、応急救護訓練
- ・おはなし会(年11回) …おはなしかごのストーリーテラーによるパネルシアター・手遊び・素話など
- ・特養老人ホームあそか園・デイサービスの訪問（感染症流行等により年6回のうち2回休み）
有料老人ホーム ケアラヴィーレ（感染症流行により年5回のうち2回休み）
歌や手遊びを通してふれあう機会を持つ。子どもたちの訪問を楽しみにして頂いている。
- ・クッキング保育…野菜ちぎり、梅ジュース、クッキー、ホットケーキ、米研ぎ

(2) 季節の行事

4月	入園進級礼拝・イースター礼拝 保護者会・交流懇談会	10月	ぶどうパーティ・ハロウィーン 運動会・秋の健診・歯科検診
5月	卒園児の会	11月	収穫感謝祭
6月	花の日礼拝・歯科検診 クラス懇談会（4・5歳児） 春の健診・卒園児の会	12月	クリスマス会（園児・卒園児・地域）
7月	プール遊び・お泊り保育	1月	新年礼拝
8月	プール遊び	2月	節分・生活発表会
9月	お招き会（園児・地域） 一斉引渡し訓練	3月	ひなまつり・リクエストメニュー給食 5歳児お別れ遠足・保護者会・卒園式

法人関係 … イースター礼拝・創立記念会・法人クリスマス・追悼記念会

(3) 地域関係

- ・ふれあい給食…登録者に年間計画を配布し、継続した地域との関わりを持つことができた。
(実施回数61回 食数171食)
- ・在宅子育て支援活動…親子で利用できるようにひろば型の保育体験(びよびよひろば)を開放・継続。
ベビーマッサージ、保育体験、クリスマス会実施他、育児相談(5回12組利用)
エッグママ(7回 新規登録9名、10人利用)
- ・卒園児の会…卒園児童との交流(年4回)

3. 30年度重点目標の取り組み

(1)子どもたちの育ち、日々の保育を大切にしたい繋がりある保育

礼 拝

チャプレンである北尾牧師、小勝牧師による月2回の合同礼拝を行う。アコライト奉仕も定着してきた。昨年に続き、隣の聖パウロ教会に出向く機会を持ち5歳児は礼拝堂で礼拝を行った。

行 事

子どもが主体となるように、子どもたちと一緒に考えて行う。日々の生活や遊びの中から行事に繋がられるように目的を職員間で確認して取り組んだ。

担当制保育と異年齢保育

これまでも乳児クラスにおいては担当育児を行ってきたところではあるが確立した保育ではなかった。この反省のもと平成29年より継続的に保育のあり方について再確認を行っている。

引き続き今年度においても振り返りを行った。

また、幼児クラスで取り組んでいる3人組の取り組みについては、決まったメンバーでの関わりを通して、子ども同士の関係性が芽生え、日頃の生活の中でも異年齢児を気にかける姿が見られた。積極的に取り組む中で自分が必要とされる喜びを体験しているところである。

法人として一貫した保育理念に基づいた保育ができるようこれからも研鑽していく。

地域交流

町会老人会が主体の地域のサロンの役割でもある「江五の集いのひろば」に協力する。5歳児が午睡をしなくなる年度後半期には、子どもたちも一緒に参加し楽しい時間を共に過ごしている。また、避難訓練を合同で行い非常食を5歳児と一緒に食べる等、保育活動に協力して頂いている。

世代間交流

世代間交流を多く持ち地域の高齢者の方々と自然な会話のやり取りや触れ合いを楽しむことで、園外活動時や就学後の地域の見守りに繋がっている。

また、近隣にある2つの高齢者施設を訪問し地域の身近な人と触れ合う中で自分が役に立つ喜びを感じるようになった。この他に「ふれあい給食」、「陶芸」、「絵手紙」等を実施した。

体操、運動遊び

基礎体力と成功体験をつけるために、体操講師を招き継続して実施し個々の成長が見られた。

猛暑によりプール活動が十分にできなかった。活動には十分な日除けの設置が必要と感じ来年度、設置計画を立てた。

食育

2歳児は部屋の前にある土スペースで3・4・5歳児はプランターを使用して野菜の栽培を行った。身近に植物の生長を観察することが収穫することへの喜びとなった。

また、クッキングを通して様々な食材に触れ、食に対する興味が深まった。

その他

- ・保育参加を積極的に呼びかけた。園での子どもの様子を実際に見ていただくことで保護者の安心感につながっている。
- ・墨田区の幼保小中一貫教育事業に参加し取り組みを行っている。菊川小学校・菊川幼稚園・中和小学校と継続的な交流を行っている。
- ・保護者の会が「シャボン玉ショー」を企画し楽しいひと時となった。

(2)職員の意識改革と育成

事業計画の作成

園の行事についてその都度「目標」と「ねらい」について、行事の持ち方や内容を含めて子どもが主体となるように見直し計画を出し合うようにしている。「どんぐりまつり」「生活発表会」について「実施のねらい」を可視化しホームページやおたよりに掲載し保護者に周知した。

園内研修

職員の自ら持っている知識をもとに相互の研鑽に努めた。また、外部研修で学んだことを報告会として時間を設け報告し学びを深めた。

研修内容：「感覚統合について」「防災について」「電話対応マナー」「担当制について」

聖書研究会

月に1回北尾牧師によりこひつじ保育園と同じテーマで実施し、法人理念であるキリスト教精神に基づく隣人愛についての学びを深めている。

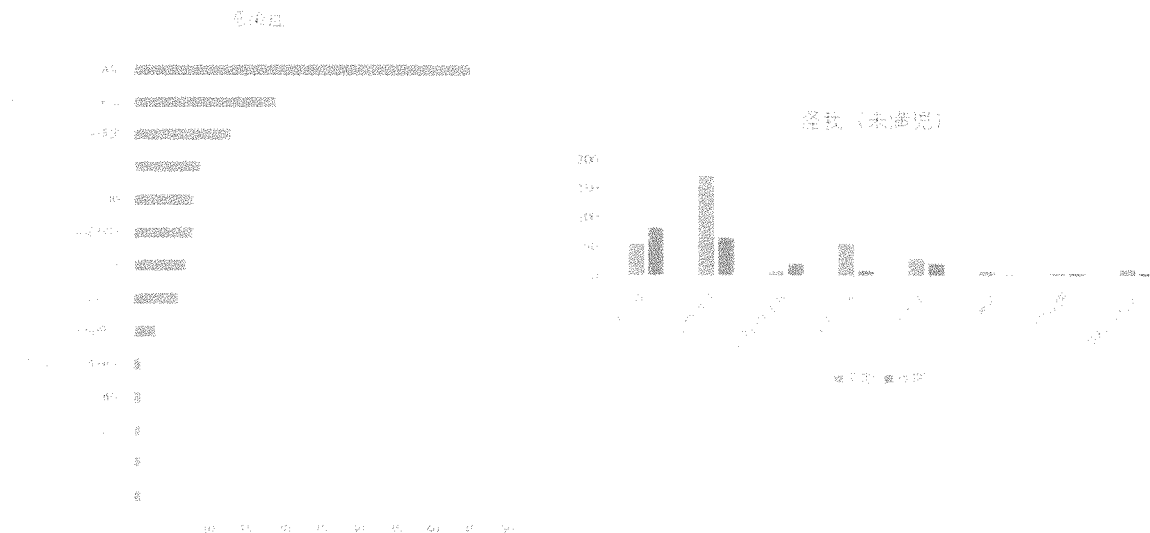
(3)家庭・機関・地域との協働

- ・要保護児童(4名)：子育て支援総合センターや児童相談所、警察と連携を密に行った。
- ・障がい児(9名)、気になる子ども(8名)：専門機関への様々なアプローチ、連携と支援を行う。
- ・家庭や園の様子から心理相談や教育相談に繋げ、次の発達へと伸ばしていった。
- ・小学校交流を通して就学への期待を持つことができた。
- ・保育要録を作成し、学校へ申し送りをした。又、学童クラブとも連携をとり申し送りをする。
- ・在宅子育て支援としてベビーマッサージや保育所体験を行う。
- ・町会と合同避難訓練の実施など地域との関わりや関心が深まり地域を知る機会となった。
- ・聖パウロ教会との連携 教会学校のイベントに参加 教会と共催で講演会の実施
- ・菊川小学校・幼稚園学校運営連絡協議会委員として引き続き連携をとる。

4. 危機管理

- ・ヒヤリハット報告・事故報告での反省を活かし、環境設定や保育の見直しと事故防止に努めた。ヒヤリハットが事故報告より少ないため職員の危機管理の意識を高めていく事が課題である。
ヒヤリハット：7件 痙攣発作予防薬の投薬後、補充を預かることを忘れたまま数日間放置 等
事故：27件 内訳：ケガ(通院あり)7件、ケガ(通院なし)6件、誤食・誤飲 2件
アレルギー 1件、その他 4件、人数確認不足によるミス 7件
- ・水遊び前の応急救護訓練を行うほか応急処置ブックを改訂し配布している。
- ・AEDの設置、アレルギー対応、エピペンの準備・使用方法を学ぶほか備蓄品の見直しや連絡用トランシーバーを購入した。
- ・一斉引き取り訓練後に防災士職員による保護者への防災講習などを実施した。また、伝言ダイヤルを保護者・職員ともに実際に体験する機会を設けた。

5.保健衛生



(1) 感染症

- ・インフルエンザの症状に変化があり、微熱や発熱がなくても陽性と診断される場合が散見された。また、リンゴ病は軽い風邪症状の時に感染力が強かったため、早期発見や対処が難しかった。感染拡大の予防の取り組みとして、玩具や室内の消毒を強化したことで、一定の効果があったと思われる。
- ・感染症の拡大防止のため手指衛生の励行に取り組むが、徹底まで達成できていないと感じている。今後の課題として継続的に取り組んでいきたい。

(2) 怪我

- ・ぶつける／かみつきの怪我が前期と後期で大きく減少しているのは、保育者が園児の保育環境を改善できていることの結果と思われる。

(3) 通院・受診状況

- ・2歳児：公園で木の根に足をひっかけて転び、木のベンチに右額をぶつけ、出血。
あそか病院受診。ステイプラー鉤の治療となった。1週間後に抜鉤し終了。
- ・5歳児：クッキング中ホットプレートに触りやけどをする。水疱形成もある。
菊川内科皮膚科クリニック受診。水疱除去と軟膏塗布。
- ・その他：歯科受診 6件 皮膚科受診3件 いずれも軽症、および異常なし

(4) 入院

- ・1歳児：小脳失調症、肺炎
- ・2歳児：インフルエンザA型、けいれん、熱性けいれん

6.実習生・見学・ボランティアの受け入れ

(1) 実習生の受け入れ

保育士養成校から実習生を受け入れ育成の場や子どもたちとの関わりの場を提供することができた。また学生の給食ボランティアを受け入れている。

実習期間が2年度に継続してプログラムされている学校もあり、子どもの成長を共に感じ、園にも愛着が生まれそのまま就職につながったケースがあった。

青山学院女子短期大学、大妻女子短期大学、洗足こども短期大学、日本児童教育専門学校
竹早教育保育士養成所、YMCA社会体育保育専門学校（受け入れ校：6校）

(2) さくらんぼの会、地域ボランティア

- ・ボランティアの特技を活かした活動場面の提供により、定期的ボランティアが増えた。同じ人がクラスに入り子どもが安心感を持ち、保育の安定、見守りに繋がった。

【活動人数 40名（延べ 359名）活動回数 156回】

～ボランティア活動記録からの抜粋より～

- ・ばら組とひまわり組の子どもたちと遊びました。お昼ご飯もばら組とひまわり組と一緒に食べました。自分の保育園生のころを思い出しました。（卒園児高校生）
- ・保育士の仕事を体験し大変だったことや困ったこともあったけど、楽しかったことや面白いことが多くてやりがいのある仕事だと思いました。（高校生）
- ・クレープに使ういちごとバナナの薄切りを行いました。何等分にカットをすれば食べやすいかの目安を身につけることができました。1週間のボランティアで私が学んだことはアレルギーを持つ子や苦手な食べ物がある子にどのようにしたら美味しく食べてもらえるかを考えることが大切であるということです。（調理・学生）
- ・不器用だけど、工作やアレンジは得意なのでそのようなことができてよかった。（小学生）
- ・お花の日。さくら組の子どもたちとテーブルのお花の組み合わせをする。
数々の行事の中で育っていく子どもと共に私も豊かな心をいただいた。（一般）

(3) 中高生職場体験 4校 計10名

(4) 小学生の親子ボランティア 活動人数13名 延べ人数62名 活動回数 34回

- ・休校日に加え平日の放課後の活動が増えたことにより昨年度と比べて活動人数、日数が増えた。
- ・活動中の事故などに備えてボランティア保険に加入することを推奨した。

7. 評価・課題

(1) 子ども達の育ち、日々の保育を大切にしながらある保育

保育園理解につながるように子どもたちや保育士の思いや活動の経過など、日々の様子を掲示するほかホームページへの積極的な掲載や父母の保育参加などを行った。引き続き、保護者に向けての発信、特に新たな取り組みをする際はより丁寧に伝えていく。

(2) 職員間の意識改革と育成

- ・「子どもたちにとって何が大切であるか」「私たちの保育内容は子どもにとってどうか」などについて職員の中で日常的に発信されることも多くなった。その都度話し合いを行いながら共通理解につなげた。職員からの問題提起を今後も大切にしていきたい。
- ・キャリアアップ研修の積極的な受講や研修報告を園全体で共有する機会を設けた。園内研修を含め次年度も共有する場を設けていく。
- ・職員定着のための意識改革として民間保育園協会を通して管理職・リーダー研修を受けた。1人ひとりの価値観の違いを認めて受け入れる大切さを学んだ。
今後も働き方を見直しながら職員と共に働き甲斐のある職場作りに取り組んでいく。

(3) 家庭、機関、地域との連携・協働

- ・10月よりにじ棟1Fを「おひさま保育室」として使用したため「ふれあい給食」は各クラスで行うこととした。今までと違いスペースに限りがあったが、工夫して行うことで地域の方々から数年間の交流を通して見守りくださった1人ひとりの子どもの成長を共に喜ぶ機会がもてた。今後も家庭と地域のつながりが深まるようふれあいの機会を作っていく。
- ・体験保育、プレママ・パパの需要が高い。クラス内での受け入れについては保護者の理解を頂くために保護者会で周知している。また園見学の希望者が増えており体験保育や行事へのお誘いやホームページを伝えるようにした。
- ・区から派遣されている巡回心理相談を積極的に活用し支援の必要な子どもに対しての関わり方を見直す。また、保護者にも周知し気軽に相談できるようにした。

(4) 危機管理・建物管理

- ・にじ棟3階多目的室漏水については無事に年度内に改修工事を終えることができた。漏水の原因は建設時の施工業者の不十分な処置であるものとわかったが他のところにも不具合が多くある。その都度、長期修繕計画を見直していきながら計画的に改修を行っている。
- ・引き続き非常食置き場のスペース拡大を検討し備蓄量を増やしていく。
- ・猛暑や豪雨など厳しい自然環境の中での保育活動は危険も伴うため暑さ指数(WBGT)をこまめに確認するなど子どもたちの安全に考慮した。

(5) 法人内施設との連携

- ・施設連絡協議会や3園打合せ会などを通して情報交換をおこない共通認識のもと運営していくよう努めていく。
- ・10月より「おひさま保育室」がにじ棟1F絵本コーナーにて過ごした。統括園長などの協力のもと在園児や保護者の方々にご理解・ご協力いただき大きな混乱や苦情もなく3月まで無事に保育を実施することができた。感謝である。また、2019年度よりにじ棟相談室を「法人事務室」として使用することになるが、引き続き保護者の方にご理解いただきお互いにより良い環境のなかで過ごせるよう配慮をしていく。
- ・母子生活支援施設の建て替え工事については説明会を設けて保護者が安心して預けることができるよう配慮をする。

(6) 人材確保

安定した保育を行うために人材のより良い採用・定着を目指して研修などに参加し求職者の動向を常に確認しているところであるが、土曜日固定勤務職員を配置し、1日8時間労働週休2日制を試行している。週休2日を試行開始したことで、振替休日を職員自身の子どもの行事にあてるなど子育て中の職員からも感謝の声があがっている。また、「働き方改革」を意識し「休憩取得実施表」を用いて可視化しお互いに休憩が取得できるよう取り組んだ結果「保育に対する疲弊」による退職者がなくなった。

採用について人材紹介会社を利用しているが年度途中での採用は難しかった。学生の就職活動期を考慮し学校への求人票送付時期を早めているところである。また、「借上げ宿舎規定」を用いて採用した職員もいる。

今年度も保育実習が就職につながっており“一緒に働きたい”と思える職場環境になってきつつあることを実感している。

平成 30 年度富士見保育園事業報告

1 児童の入所状況

●定員 100名

●在籍園児数102名 (入所率 102%)

年 齢	在 籍 数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
1歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
2歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
3歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
4歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
5歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
合計	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	1224
延長保育		16	16	17	17	17	17	18	17	17	17	17	17	203
一時預かり保育		22	20	24	26	31	25	24	28	28	26	29	25	308

※区別園児延べ人数 江戸川区1, 212名 葛飾区12名

※障がい児 1名 ※一時預かり事業総登録数 508名 年間利用者延数 311名

2 年間行事

- (1) 定例行事 合同礼拝、体育あそび、リトミック、わらべうた、消火避難訓練、お楽しみ給食
 (2) 地域交流 育成室交流 (年6回)、光照苑交流 (年6回)、保育体験 (週2回)
 ハンドベルサークル 「お茶会とおはなし会」

(3) 季節の行事

	園行事	父母の会(保護連)主催	法人・ルーテル教会関係
4月	入園式・進級式 卒業園児の親子会	イースター礼拝 父母の会新旧引き継ぎ会 父母の会総会	辞令交付式
5月	ファミリー組親子遠足 家族の日 クラス別懇談会 進級写真		内部監査
6月	花の日礼拝 ファミリーデー (父母の会共催) 観劇会 クラス別懇談会 コーヒータイム	ファミリーデー (園共催) 保護連研修会	
7月	七夕 プール開き お泊り保育		

	園行事	父母の会(保護連)主催	法人・ルーテル教会関係
8月	プール遊び 水遊び		
9月	引渡し訓練・プラネタリウム お招き会《敬老の集い》 コーヒータイム		法人創立記念会研修会
10月	運動会 ファミリークラス遠足(芋掘り)	親子コンサート	
11月	祝福式 収穫感謝礼拝 収穫感謝クッキング コーヒータイム 乳児親子交流会	保護連研修会 保育園祭り(4歳児親子)	ルーテル幼保クリスマス
12月	第1第2第3アドベント礼拝 クリスマス礼拝(園児、卒園児) クリスマス祝会		キ保連関東部会クリスマス 役職員合同クリスマス
1月	公開保育 観劇会 もちつき		
2月	生活発表会(幼児クラス) 新入園児入園説明会 卒園児を祝う会 クラス別懇談会 コーヒータイム 公開保育	卒園児を祝う会	
3月	雛まつりお茶会 お別れ遠足(5歳児) お別れ会 卒園式 公開保育	父母の会総会	追悼記念会礼拝・研修会

★平成30年度においても大竹先生によるおはなし会と「劇団風の子」による観劇会を開催することができた。感謝である。

3 平成30年度を振り返って

平成30年度は園にとって大きな変化のある年であった。

① 施設長の交代・役割の明確化

今年度、園長の交代があり、新体制でのスタートとなったが引き続き和田統括が在籍できることは大きな支えであると同時に統括園長のもと3園の情報共有、統一を円滑に進めることができた。

また、主任、副主任、リーダー等の役割を提示することで一人ひとりの働きが明確化し高い意識をもって業務にあたることができた。

② 保育・行事の見直し

新体制となり、これまでの富士見保育園の保育、行事を職員全体で話し合い振り返りながら見直しをした。これまでの「1人1人を大切にする保育」を職員一人ひとりが見つめ直す機会となり、今後も職員同士がお互いを意識し伝え合うことで共に研鑽できる環境作りをしていく。

また、行事においてもあり方を見直し子どもにとっての必要性、保護者負担を考慮し、次年度から『乳児親子交流会』『ファミリーデー』の取り止めを決定し父母の会総会で報告し承認を得た。

今後も利用者の方に園の方針を十分に理解していただくよう努めるとともにお互いに子どもの成長を喜び合える関係を築いていく。皆が安心できる保育園でありたい。

4 平成30年度重点目標の取り組み

(1) 保育内容の充実・向上

- ① 乳児保育は、「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」の3つの視点からこれまでの保育内容を整理し、これまでも行ってきた『担当制保育』を充実させ、一人ひとりの発達にあった丁寧できめ細やかな家庭的な関わりをすることができた。
- ② 幼児保育は『異年齢保育』を通して子どもたちの「知識や技能」「思考力や判断力・表現力」「人間性や学びに向かう力」などを育み、互いの違いを認め合いながら共に育つ保育をすすめていくことができた。また、クラスごとにテーマ遊びをもち、年長児を中心に子どもたちと計画、準備をすすめ1つの遊びをクラス全体で共有し楽しむことができた。
- ③ キリスト教保育で大切にしている目に見えにくい心の育ちを子どもとの生活の中で、保育士も感じ認め共に培えるよう職員間での話し合い、伝え合う時間をもつようにした。
- ④ 子どもたちは人間形成の基盤となる時期を保育園で生活しているということを十分に理解し、子ども一人ひとりの人格を尊重することを意識し関わるることができた。これまでやってきたことも再確認し改善、向上に繋げることができた。

(2) 職員の資質向上

- ① 毎年、吉本和子先生の指導を受け保育内容を振り返るなかで、一人ひとりが意見を出し合い、『担当制保育・異年齢保育』をはじめとする、保育指針に基づき保育の特徴・年間カリキュラムについてまとめた。職員の入れ替わりがあっても、継承できるものとした。また、和田統括のもと法人3園で同じ志を持ち保育を進めていけるよう、吉本先生の指導を受けたことは大きな一歩であり継続していきベタニヤホームとしての保育を確立していく。また、他園から保育見学の依頼があり、公開保育として年4回行なった。見てもらうことで自分たちの保育の振り返りにも繋がった。
- ② 継続して「保育環境」「わらべうた」「リトミック」「体育あそび」の専門講師を招いて、ポイントや具体的な関わり方を学んだり、ちいさな疑問などの相談をしたり、指導を受けたりして、日々の保育に活かすことができた。子どもと共に研修を受けることで、指導の中でコツを教えてもらったり、導入方法を学んだり、子どもと遊びながら大人の表現方法も学んだりすることができた。それを通して、子どもとのかかわりを深めることができた。園での遊びは、年間を通して計画を立て、生活発表会では、1年の集大成を保護者の方に見ていただき、喜んでもらった。
- ③ 障がい児への支援として、本年度も区よりの巡回支援と園として依頼した発達相談を年4回受けることで同じ方法で職員がかかわれる様、かかわる上でのヒント等、相談員からの指導を受け、研修にて勉強会を持ち全職員に伝えた。
- ⑤ 29年度から障がいをもつお子様をお預かりしているが、研修に参加し基本的な療育方法を学ぶとともに食事の進め方など家庭と随時連携・連絡をとりつつ細心の気配りをしながら保育を行ってきた。
- ⑤ 聖書研究会では「人との繋がり大切さ」やキリストが示した「隣人愛」の精神を松田牧師の協力のもと法人職員の1人としてキリスト教精神を、働きを通して利用者に表していけるよう学びの時をもった。

(園外研修)

平成30年度は以下の内容の外部研修に参加した

- ・子どもの文化教室（年齢・テーマ別）
 - ・キリスト教保育連盟東地区研修
 - ・江戸川区認可私立保育園乳幼児食研究会
 - ・給食施設従事者講習会 他（江戸川保健所主催）
 - ・職員研修・リーダー層研修（江戸川区認可私立保育園園長会主催）
 - ・認可保育園講習会・サービス推進費事務手続き研修（東京都主催）
 - ・キャリアパス対応研修（東社協主催）
- など

5 防災・防犯と安全管理

- ① 地震、火災、水害等における災害対応マニュアルの見直し、職員間の動きそれぞれの役割を明確にし、再確認をした。
- ② 行事での門扉の開閉は、不審者の侵入や子どもの抜けだしのないよう安全係を置き、安全管理を行っている。
- ③ 区からの安全管理連絡の情報を得たときは、すぐ掲示し注意を促した。
- ④ 非常時には区より支給されている PHS 電話を持ち出すことにしている。いつ発生するか予測できない災害にむけて、子どもたちを安全にかつ迅速に誘導できるよう毎月消火避難訓練をした。
- ⑤ 3日分の食料等とともに、防災用品として発電機も外部倉庫に備えている。
- ⑥ 保護者への対応として、災害時の一斉メール配信を年1回引取り訓練で行った。
- ⑦ 防災マニュアルの事業継続計画（BCP）を作成すると共に消防署に提出した。

6 保健衛生管理

- ① 感染症については、発症した際には早期に掲示し、家庭に知らせ、感染予防の対策をした。
また、感染症の予防対策として、塩素系の消毒液と手袋、マスク等を1セットにして各クラスに備え、処置を行う事で、感染を最小限に抑える事ができた。
 - ② 今年度もぜん息・食物アレルギー緊急時対応研修にも参加し、保育士や栄養士、看護師は共に学び、それぞれの役割と管理や働きなどの再確認をした。（エピペンの使用法など）
 - ③ 嘱託医による健康診断と0歳児健診を行うことにより、園児の健康状態を把握することができた。
嘱託医のご好意で職員の健康管理・予防接種も行うことができた。
- ◎定期的に以下の内容を実施している。

定例実施	・身体測定	・0歳児健診	・発達相談	・布団乾燥消毒	・布団の洗濯	
5月	・・・	ぎょう虫検査	健康診断	6月	・・・	歯科健診
7月	・・・	園舎消毒		10月	・・・	健康診断

7 次世代育成

- ① 保育士養成学校の実習・中高生の職場体験・ボランティアの受け入れ等では、「子どもたちとのかかわりの楽しさや方法を実感した」という感想を得た。また、育成の場を通して職員一人ひとりの自己研鑽の場ともなっている。

◎平成30年度は以下の学校の受け入れを行った。

★保育実習 計7校15名

- ・青山女子短期大学 2名 ・立教女学院 2名 ・愛国学園保育専門学校 6名
- ・東京子ども専門学校 1名 ・大妻女子大学 2名 ・道灌山保育専門学校 1名
- ・目白大学 1名

★中学生職場体験(チャレンジドリーム) 計3校(10名)

- | | | | | | |
|---------|----|---------|----|---------|----|
| 小岩第1中学校 | 3名 | 小岩第3中学校 | 5名 | 小岩第4中学校 | 2名 |
|---------|----|---------|----|---------|----|

8 保護者との連携

- ① 遠足、親子交流会、ファミリーデー、コーヒータ임、親子あそび(コンサート)などを通して、職員と保護者、家族ぐるみの繋がりが深まったという、うれしい声を聞く事ができた。
- ② 父母の会総会・懇談会等では、年間行事予定、職員の状況などを理解していただくため、園の保育目標や保育方針、保育内容、来年度の方針を伝え、理解を得るようにした。

9 今後の課題

- ① 10年、20年と経験年数を重ねる職員が増えてきている。新しい職員を迎えるにあたっては常に初心に戻り、自己を振り返り、周りの人にどうみられるのかを意識し働いていく。また子ども、保護者、職員同士の関わり方、声掛けなど職員がお互いを気にかけて、お互いを高めていく。
- ② 今年度は、10月からの「幼児無償化」など大きな変化がある。今現在、明確な事は決まっていないがわかりしだい周知し、対応していく。また、建て替えも検討されているので情報の収集、準備をしていきたい。
- ③ 卒園児(小・中・高校)及びその友だちを対象に、月曜日から金曜日までの16時から17時までの1時間ではあるが、育児体験の受け入れとしての保育園の開放や、緊急を要する子どもの受け入れ、保護者との待ち合わせ場所とするなど積極的な利用があり利用した家庭からも喜びの声がある。今後は公益事業としても発展させ地域子育て支援として継続していく事とする。
- ④ 前年度に引き続き、保育士の確保と就労の定着ができるよう、居心地の良い職場とする。日中の時間を効率よく使うことで、超過勤務を少なくする。
- ⑤ 法人主導で保育園独自のホームページを作成し平成29年4月より運用を始めている。保育園利用者や今後利用される方へのPRとして積極的に活用できるよう必要に応じて随時更新していく。

平成 30 年度こひつじ保育園事業報告

年齢	定員	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
0 歳児	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
1 歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156
2 歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
3 歳児	21	21	21	20	21	21	21	21	20	21	21	21	21	250
4 歳児	21	21	21	20	19	19	19	19	19	19	19	19	19	233
5 歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
受託児 (江東区)		0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3
合 計	100	100	100	98	98	98	98	98	97	98	98	98	98	1,179
障がい児		7	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	139
延長保育		10	10	7	11	10	10	10	10	10	10	10	10	118
1 時間単位保育		28	27	32	30	31	33	31	29	37	33	39	36	386
一時保育		0	25	31	17	3	18	35	25	42	24	28	41	289

1. 児童の入所状況

定員 100 名 在籍児童数 (入所率 98%) 受託児 江東区 1 名 (12~2 月)

○職員状況

園長 1 名 副園長 1 名 主任 3 名 保育士 15 名 (育休 3 名含む) 看護師 1 名 栄養士 1 名 調理員等 4 名 (育休 1 名)
計 26 名
有期職員 8 名 嘱託医 (内科、歯科) 各 1 名

2. 年間行事

- (1) 定例行事 合同礼拝・体操教室・身体測定・消火避難訓練・誕生祝食・0 歳児健診
- (2) 地域交流 体験保育・クリスマス会・お試し離乳食・クッキング
- (3) 季節の行事

園 行 事		法人関係・ルーテル教会関係
4 月	イースター礼拝・進級礼拝	辞令式 (新人)・イースター礼拝
5 月	ファミリー交流会・春の健診	健康診断・内部監査
6 月	花の日礼拝・歯科検診・乳児交流会 (クラス懇談会) ・卒園児の会	
7 月	お泊り保育・園舎消毒・プール遊び	
8 月	プール遊び・水遊び	
9 月	一斉引き取り訓練・お招き会	創立記念会
10 月	遠足・秋の健診・園舎消毒・ファミリースポーツデー	
11 月	収穫感謝祭・祝福式・歯科検診	ルーテル幼保クリスマス礼拝
12 月	クリスマス礼拝 (園児・卒園児・地域)	役職員合同クリスマス礼拝 キ保連関係
1 月	新年礼拝	
2 月	懇談会・豆まき・卒園記念撮影・生活発表会	
3 月	5 歳児お別れ遠足・ありがとうの会・お別れ会食・卒園式 リクエストメニュー献立、給食・ひなまつり	東京大空襲罹災者記念会礼拝

3. 平成30年度の重点目標の取り組み

(1) 子どもが安心して過ごせる保育

- ・合同礼拝では5歳児の当番の子どもが点火・消火を行い、毎月の聖句を暗唱する。クラス礼拝から主の祈りを暗唱して子どもが主体的に祈り礼拝を守っている。
- ・子ども達の健康的な成長・発達・表現力の育成に向けて、引き続き3.4.5歳児を対象に体操講師のもと、年間カリキュラムに沿って体育指導を行った。日々の保育活動の中でも指導方法を取り入れることによって大きな成長（自信・達成感・運動能力・協調性）へと繋がった。又、体力測定を行う事によって技能の上達や体力の向上が個々に把握でき、見通しを持って行うことができた。
- ・食育では乳児クラスはきのこと栽培、3歳児は野菜等の皮むき、4歳児は味噌作り（5歳児のお泊まり保育で食べる）、5歳児は米とぎ当番やクッキングを行なった。季節の野菜を育てることの難しさや食材の変化を身近で感じ、収穫して食べる体験を通して食物に対する感謝の気持ちへと繋がった。また、食材の展示が定着し子ども達や保護者も一緒に見て触れることで野菜の名前も覚え、幼児では献立表の読み書きもできるようになった。
- ・保育の流れ、乳幼児の声かけについて話し合ったことを実践し保育内容を確認し合った。
- ・延長保育では子ども達の不安等を軽減させる為、家庭的な雰囲気づくりを心がけ、静かな環境の中で落ち着いて休息がとれるよう配慮して保育した。
- ・担当制を行っている乳児クラスは3ヶ月～6ヶ月単位で担当をローテーションすることにより、クラスの子ども全員の発達状況や心理状況を把握することができ、生活習慣の見通しが持て、個々のリズムに合わせて対応した。
- ・昼礼では口頭だけではなくノートに内容を記述し確認できるようにした。日々の連絡に加え小さなトラブルや対応が難しいケースなども報告することでクラスの状況の把握や共通理解につながった。おやつ・補食・夕食もアレルギー児対応になっているか毎日確認する事で誤飲食なく安全に提供できた。
- ・園で怪我や事故が起きた時は子どもの状態を園長・主任に正確に伝え、目や歯などの怪我には専門医を受診して指示を仰ぎ、保護者には誠意をもって対応した。
- ・乳児懇談会で実際に子どもが食べている量・形態・食器で提供した試食会を行い、献食と一緒にレシピを置いたことにより喜ぶ声が多く聞かれた。

(2) 職員の意識と育成

- ・聖書研究会では何を学びたいか意見を出し合い、その中で北尾牧師が年間のテーマを決めた
 - 4月 信頼 主のまことは
 - 5月 慰め 心痛む悩むもの
 - 6月 帰郷 恵み深い父の神は
 - 7月 平和 幾千万の母たちの
 - 9月 敬老 わが主のみ前に
 - 10月 鎮魂 白雪おおえる
 - 11月 クリスマス 義の太陽は
 - 1月 救い 神さまの愛は
 - 2月 イースター みさかえあれ
- ・園内研修では、保育士を目指す人が今就職先として選ぶのはどんな保育園なのかというテーマで話し合った。→継続していく
- ・経験年数に応じた研修に自発的に参加し研修報告により情報を公開し保育に生かした。また、栄養士や看護師などの専門性を生かすため感染予防・アレルギー児対応・エビペン研修に参加し役割や管理等を確認した。
- ・体育講師の実技研修に参加し、日常の保育に取り入れて行った。

(3) 家庭・機関・地域との協働

- ・発達支援児には支援施設（みつばち園・にじの子）と連携し、相互の施設で子どもの様子をみても

らい対応の仕方を学んだ。就学前の支援児の保護者にはかがやきシートの提出をお願いし、小学校への申し送りもしっかりと行った。発達心理相談員の助言や指導を受け保護者との個別の面談等で個々に合った細かな対応を行った。保育要録を作成し小学校や学童クラブへ申し送りした。

- ・緑二丁目亀齢会（老人クラブ）との交流による墨田区演芸大会（すみだトリフォニーホール）に合同出演
- ・個人面談を早めに行ったことにより、保護者の思いや不安・悩みを早期に聞く事ができ、成長の先にある形をビデオや写真で詳しく伝えることで、園での様子を知ることができ安心感へと繋がった。
- ・一時預かり保育の子ども達と在園児との交流は日常的に設け関わっている。
- ・年間の地域活動の内容や日程・対象年齢等の予定表を提示したことにより見通しを持って準備することができ参加者も増えた。
- ・家庭的保育者会議の中で（月1回）喫食した様子、献立内容、衛生面について確認しあうことで安全に食事の提供をすることができた。

4. 危機管理

- ・墨田区より地域に防犯カメラが設置され外観からも守られ危機管理に繋がった。
- ・ヒヤリハット・事故報告を書面にして昼礼や職員会議で全員に周知し反省を生かし改善点を共有し事故防止に努めた。また、どんな小さな怪我でも園長に報告した
- ・ファミリーサポートを利用している保護者に送り迎えする人の写真を事前に準備してもらい、子どもを安全に引き渡すことができた。
- ・墨田区からの保育園安心安全（事件・事故）情報は掲示して周知した。
- ・食物アレルギー児の確認ではホワイトボード・アレルギーチェック表で確認しプレートで個別に配膳及び昼礼での伝達、提供前に担任と給食職員により内線で確認し、配膳する人と介助する人と口頭とアレルギー表にサインをし、二重三重の確認を行った。
- ・消防署による応急救護やAEDの訓練を行い保育中での起こりやすい怪我・事故対応について学んだ。
- ・警察署による不審者対応の訓練を受け、さすまた使用法やインターフォンで十分な確認をするよう再度共通理解した。
- ・緊急地震警報機を各フロアーに設置したことにより迅速な避難対策をとることができた。
- ・一斉引き取り訓練を通して、伝言ダイヤル・メール登録の確認、備蓄品の説明を行ったことにより家庭でも防災について新たな目で見直す良い機会となった。
- ・近隣の地図（公園・保育園・小中学校・近隣医療機関・交番・消防署等）を作成したことで目的地・移動往復コース・クラスの行動範囲が明確になった。

5. 環境整備・保健衛生

- ・流行性疾患インフルエンザ 37 名・溶連菌感染症 8 名・手足口病 2 名・伝染性紅斑 16 名
RS2 名・アデノウィルス 2 名・ヘルパンギーナ 8 名・流行性結膜炎 1 名・おたふく 2 名であった。
- ・嘱託医・嘱託歯科医による健診を通して園児全体の健康状態を把握し、感染症の情報や怪我の対処法も直接聞くことができた。全職員が嘱託医によるインフルエンザ予防接種を受けた。
- ・感染予防の為手洗いやうがいの大切さを日々の保育の中で子ども達に伝え、子ども達が手に触れる階段の手すり・壁面・遊具棚等の拭き掃除、玩具の消毒の強化・励行に努めた。インフルエンザ発症時は、発症状況を早期に掲示し家庭での感染予防についても協力を依頼した。

<事故報告>

眼科受診 4 件 歯科受診 1 件 皮膚科受診 1 件 整骨院受診 1 件 いずれも軽傷

*小さな怪我でも（すり傷・かみつき等）報告した。

6. 実習生・ボランティア受け入れ

大妻女子短期大学（15名）和洋女子（1名）・栄養士ボランティア（9名）

小中学生ボランティア（20名）職場体験、両国中学（3名）

<小中学生ボランティアの声>

・「子ども達の笑顔が嬉しかった」「自分が小さい時のことを思い出した」「また、こどもたちに会いたい」

<給食ボランティアの声>

・「一生懸命給食を食べている子どもたちの姿を見ることができ、作る側のやりがいを感じた」
・アレルギー対応や出汁、和食を大切にしている現場を体験し、そのひと手間がおいしさや、笑顔につながるにつながることに気付いた。

7. 評価・課題

(1) 子どもが安心して過ごせる保育

- ・保育指針に基づく担当制保育、異年齢交流等の見直しの継続
- ・常勤・非常勤に問わず一貫性のある保育
- ・発達支援児、気になる子どもについて、墨田区巡回の心理相談員や関係機関と連携し継続的に関わっていき適切な対応や関わり方を見直した。

(2) 職員の意識改革と育成

- ・副園長・主任・副主任が意識をもって積極的に業務にあたり、具体的な指導を行い職員育成に取り組んだ。さらに業務分担を細分化し、次年度にも繋げる。
- ・日誌・児童表を変更し保育実践改善に生かせるよう見直しをしていく。
- ・保育体制を調整し研修参加に努める。

(3) 家庭・機関・地域との関連・協働

- ・日中に乳児交流会・個人面談などを行ったが出席率は良かった。
- ・10月からの幼児教育無償化に伴い仕組みや事務的な処理を把握し保護者に理解を得る。
- ・在宅子育て支援として保育体験の場を提供し、子育ての楽しさを感じてもらい地域の繋がりを深めて行った。
- ・年間ホームページを積極的に更新した結果、地域活動・一時預かり保育・施設見学の問い合わせが多くあり入園に繋がった。

(4) 危機管理・環境整備

- ・屋上の防水改修工事を行った。
- ・2階のベランダ水漏れの防水工事実施計画・長期修繕計画
- ・防災備蓄品の強化→「子ども自助パック」・登降園用リュックに避難用衣服（3.4.5歳児）・職員非常時参集リストの見直し・園用携帯電話の導入

(5) 法人内施設との連携

- ・10月より3月までおひさま保育室より定期利用事業を受けた（職員2名異動）。
- ・各施設と連携し情報を共有してベタニヤホームの保育を確立していく

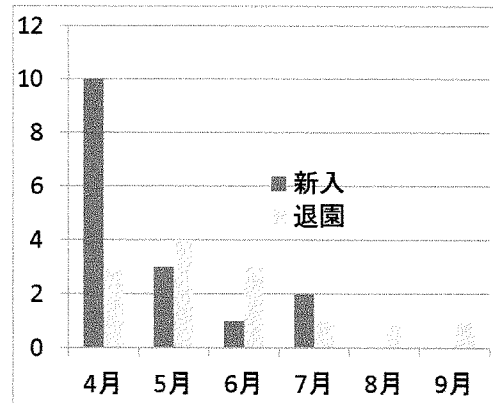
(6) 人材確保

- ・保育士確保と職員の就労が定着できるよう進めていく（週休2日制の実施等）
- ・負担が少なくなるよう会議を日中に勤務時間内に行った。

平成30年度 ベタニヤホームおひさま保育室 事業報告 (30.4.1~30.9.30)
定期利用保育利用状況

◎年齢別人数

	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1歳児	20名	10	11	10	9	8	8
2歳児		10	9	7	7	7	6
合計	20名	20	20	17	16	15	14

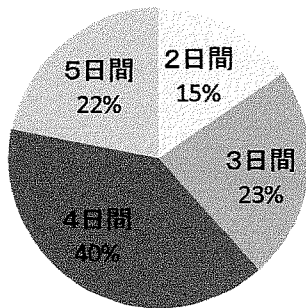


◎曜日月利用者数(定員20人)

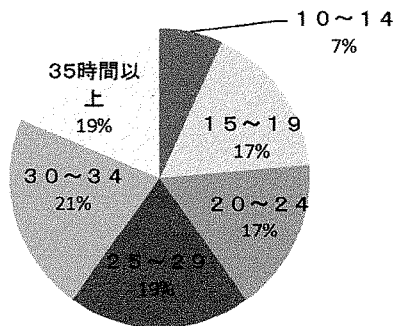
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
月	14	11	11	9	8	8
火	14	14	14	11	11	11
水	11	13	13	10	9	9
木	13	12	12	10	8	8
金	14	14	14	10	8	8
土	7	7	7	5	5	5

定員を満たしていなかったため入園希望は多かったものの、9月閉園という事で止める事があった。また、入園された方も積極的に転園を検討された。7月以降は法人より新入園児の受け入れはしないようにと伝えられたので、問い合わせはあったがお断りした。

◎週間利用日数別人数



◎週間利用時間別人数



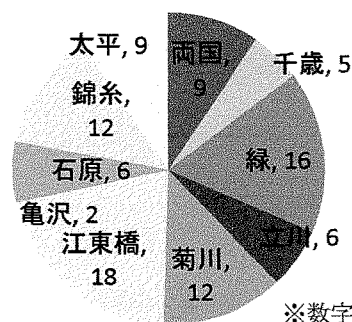
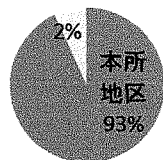
1歳児は育休明けで保育園に入れなくてこちらを利用する方が多いので利用日数、時間を取る制限まで取っている。2歳児は利用日数、時間とも比較的余裕があった。

・定期利用は保育時間を決めて利用して頂くのだが、決めた時間より早く登園される方やお迎えが遅くなる方も多かった。時には一時預かりとして対応することもあった。

・産休明けなどで認可保育園、認証保育園に入れず、入園の為の実績として定期利用にされる方もいる。区から新園情報の提供あったので、ポスター掲示やチラシ配布をしていく。

◎定期利用地域別利用人数・割合

合計	本所地区	向島地区
95	93%	7



菊川、江東橋のほかに緑、錦糸といった近隣の地域が多いが、太平や石原、亀沢などやや離れていても通われる方も増えてきた。

※数字は人数

◎補助金返還

平成30年度の補助金を園児減少の為、補助金を116,100円返還する。

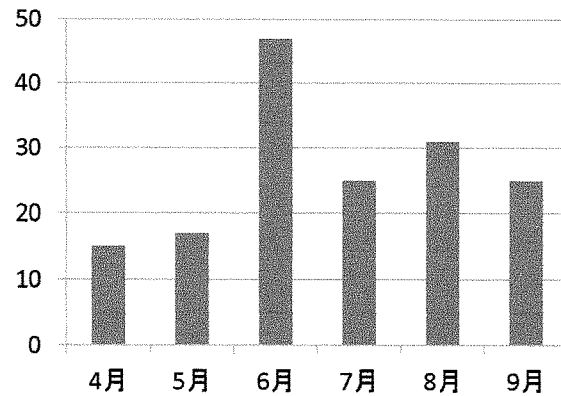
一時預かり利用状況

◎年間集計(年齢別利用者数)

年齢別

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
4月	4	7	4	0	0	15
5月	9	8	0	0	0	17
6月	14	28	4	0	1	47
7月	5	18	1	1	0	25
8月	7	14	6	2	2	31
9月	10	15	0	0	0	25
合計	49	90	15	3	3	160

幼稚園入園前の1, 2歳児,
特に2歳児の需要が高かった。



新入園児が多い時や、配慮が多く必要な場合があり、そういった場合は定員に空きがあった場合も一時預かりの予約を控える場合もあった。また、定員いっぱい一時預かりを受け入れると保育の安定や安全を保てないので人数制限も行った。

◎時間別利用者数

時間(利用料金)	1～2(1,200)	3～4(2,000)	5～6(3,000)	7～10(4,000)
	40	36	58	26

定期利用保育の方が通常の利用時間を増やす形で1～2時間の一時預かりを利用する事が多かった。

地域の方は初めは3～4時間、子どもの様子を見て5～6時間と長くしていくことがあった。

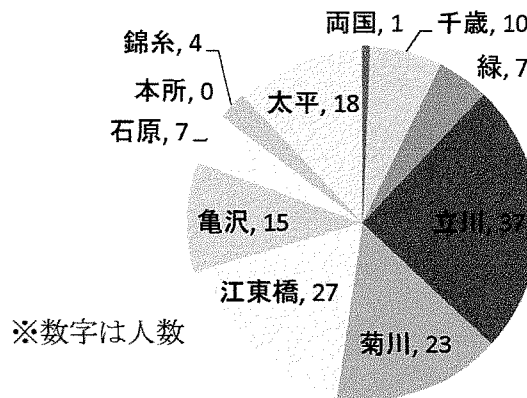
また、こちらからも不安定な様子が見られたときは保護に伝えて保育時間を短くしていくようにすることもあった。

◎一時預かり地域別利用人数

本所地区	149
向島地区	11

ほぼ本所地区の方の利用である。やはり江東橋、菊川、立川と近隣の方の利用が多いが、亀沢、太平といった少し離れた地域からの利用も増えていた。そちらの方面に気軽に一時預かりを申し込める施設が少なく、いつも定員が埋まっているという意見が聞かれた。

本所地区地域別詳細



・幼稚園入園前の1, 2歳児の利用が多かった。理由としては、保護者のリフレッシュや幼児などもあったが、集団保育を経験させたい、母親と離れて過ごすことを経験させたいという事もあった。

・泣いてほとんど遊べない場合や午睡の時間に不安定になる場合など子どもに大きく負担が見える時は、保護者に伝え保育時間を短くしたり、変更したりして、安心して遊び、過ごせるようにした。

・リピーターとして月に4回利用する方が多く、保護者同士で仲良くなり様子を伝えあったり、時間を合わせて一緒に過ごすことで安心するかな、という配慮もしていた。仲が良い反面、衝突もあり、噛みつき等の事故が起こることもあった。

・定期利用利用者が一時預かりも併用して利用されている

・定期利用保育で利用していた子が大きくなって「行きたい」と母親に言って一時預かりを利用してくださり、成長した姿を見せてくれた。

・散歩に出掛けたり、園庭で遊ぶことが出来ること、また夏にはお水遊びや泥んこ遊びなどが出来る事を子どもも保護者も喜んでいた。

○職員構成

- ・施設長含め常勤3名、有期雇用職員(週30時間未満勤務)3名

○月間プログラム

- ・中旬身体測定 ・下旬消火避難訓練
- ・誕生日会 (カードと冠をプレゼントする)
- ・季節に合わせた製作 (クレヨン、絵具などを使用する)
- ・転園する方へ写真つきカード

○気持ちに寄り添った保育

- ・積極的に園外活動を行い、遊びを充実させることで泣いている子が気を紛らわしたり、散歩を楽しみに笑顔で登園する姿が見られた。

○ボランティアの受け入れ

- ・小学生3名

利用していた園児が小学生になってボランティアとして来てくれた。

また、園児の姉が学校の休みを利用して来てくれることもあり、子ども達はとても喜んでいました。

○職員会議

月1回

○危機管理

- ・誤食や事故の可能性があった際は速やかにヒヤリハットを記入して全体で共通理解をする。

○職員の資質向上・評価(総括より)

☐楽しく仕事が出来ましたか

- ・チームワークがとても良かったと思います。皆で声をかけあって一人ひとりが出来る仕事をした時に「ありがとうございます」と声を掛けて頂き、なんて素敵なお言葉だろうと感動しました。
- ・それぞれの子供の成長する姿を見て感動したり甘えてくる姿に癒されたりと、仕事を楽しく感じる時間も多かった。また一緒に働く方々にいろいろと助けていただいて有難かった。
- ただ保育室の閉鎖に伴う紆余曲折や説明の遅延、不足などで不安や不快に感じることもあった。
- ・子供たちの成長が日々感じられた事。職員間でお互いに尊重し合って行動が出来た。
- 雰囲気は活動的、明るく積極的に思えたこと。

☐やりがいがありますか

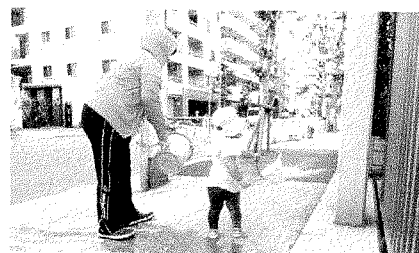
- ・その時々は大変な事も多いが子供たちの成長を振り返ると、大きく成長する時期でもあるしとてもやりがいを感じる。一時預かり保育も需要が多く、難しさを感じつつも役に立てているかと思う。
- ・残念ながら9月での閉園という事で、やりがいを持ち続ける事は難しかったです。しかし、利用者の“ここしかない”という気持ちもあり、子どもの成長を近くで見る事で動かされたと思います。

☐自分にとって課題はありましたか

- ・個性の違う子どもたちに対し、どのように接して良いのか戸惑うこともあった。相談したり本を読んだりして解決方法を見つけられたらと思う。
- ・アレルギーの事や保育のスムーズな流れ、気持ちの切りかえが難しい子への声掛けの仕方など、自分としてはまだまだ至らない所が多くあったので、そこが課題だと思いました。
- また、手遊びや歌、紙芝居など季節を感じられるものを活動の節目で取り入れて、メリハリのある保育が出来たらと思います。
- ・研修や講座を受けることが出来たので、そこで得た知識や技術を保育の実践で活用したい。
- ・忙しい時、時間に追われた時に丁寧な保育が出来ずにいるので見直したい。



夏休み中は小学生ボランティアで賑わう



「2018すみだ打ち水推進月間」に協力して、毎日水遊びのお水で打ち水をする

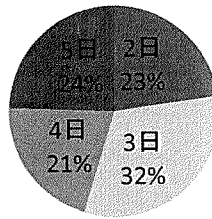
定期利用保育利用状況

◎年齢別人数

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1歳児	8	8	4	3	3	4
2歳児	5	5	3	4	4	4
合計	13	13	7	7	7	8

12月開園の保育園に4名措置された。
 利用者の必要に応じた利用日数になる。
 保育園入園申請書提出時期には仕事を増やし
 保育日数を多くする方もいた。

◎週間利用日数



◎延長保育

	回数	時間
10月	7	25h
11月	7	15h
12月	1	1h
1月	0	0
2月	0	0
3月	0	0

◎評価

・定期利用保育の時間を過ぎた場合、それまでは一時預かりとして受けていたが、菊川保育園では一時預かり事業は行っていないという事で延長保育料として超過分を頂く。
 違う曜日への対応はこひつじ保育園の一時預かりを勧める。

・13人が移動してきた子どもたちは多少の動揺は見られたものの、安定して過ごしていた。
 保護者は保育者も友だちも同じという事もあり、保育園が決まるまで通える場所があることを喜んでいた。

・保育園でりんご病が長く発症することがあり、妊娠初期の保護者が大事を取って3ヶ月お休みした。

・保育園行事に少し触れ合う機会もあり、職員や園児や保護者からもお声をかけて頂き有難かった。

・4月からは保育園、幼稚園、定期利用保育などそれぞれ行き先が決まる。

・補助金

10月移動した当初の頃より保育園入園が決まることが多かったので、予定より人数が減り1,410,000円補助金の返還があった。